

社会資本整備総合交付金

都市再生整備計画事業 事後評価

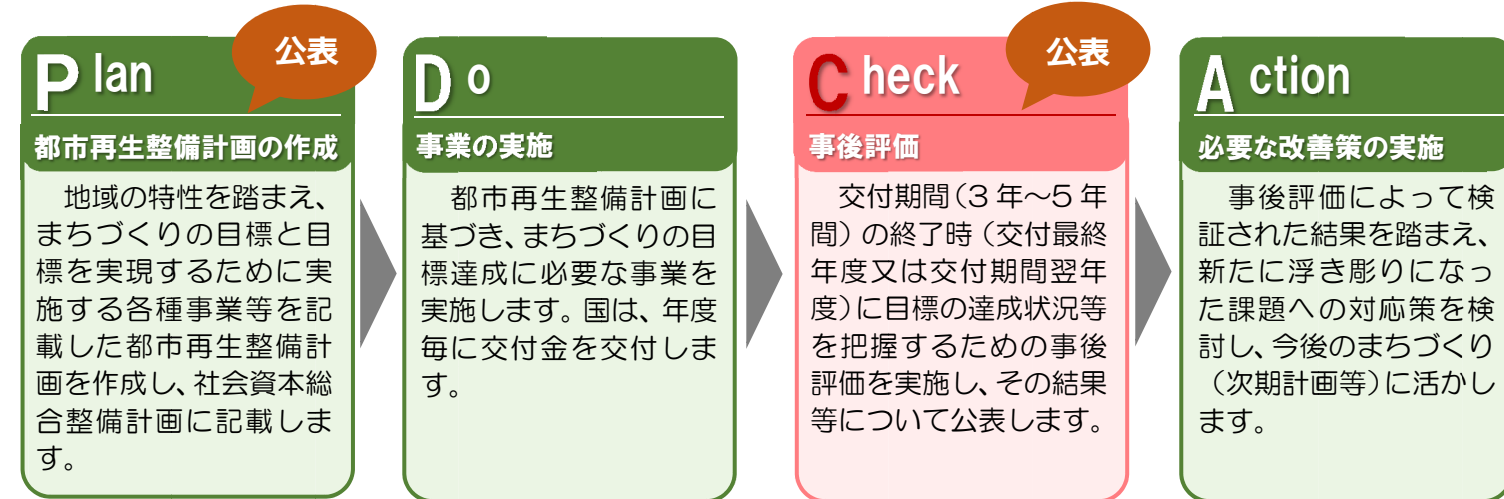
JR 和泉府中駅周辺地区(2期)

都市再生整備計画事業とは？

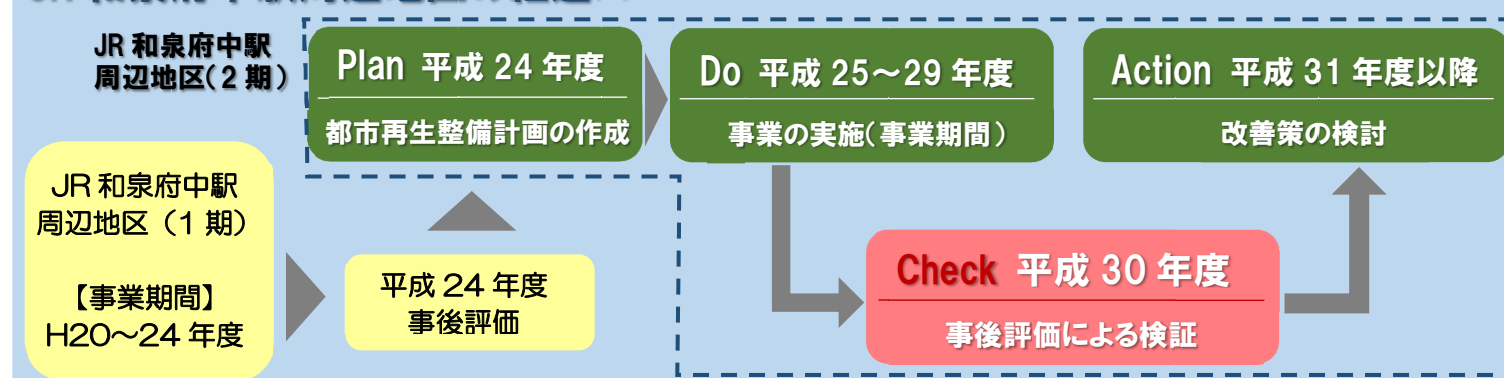
都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的としています。

都市再生整備計画事業の流れ

都市再生整備計画事業では、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標や数値目標を達成するために必要な事業を記載した都市再生整備計画を作成（*Plan*）し、成果を意識しながら事業を実施（*Do*）し、交付期間終了時に目標の達成度を評価（*Check*）するとともに、必要な改善点は速やかに改善（*Action*）するという一連のサイクルを導入しています。

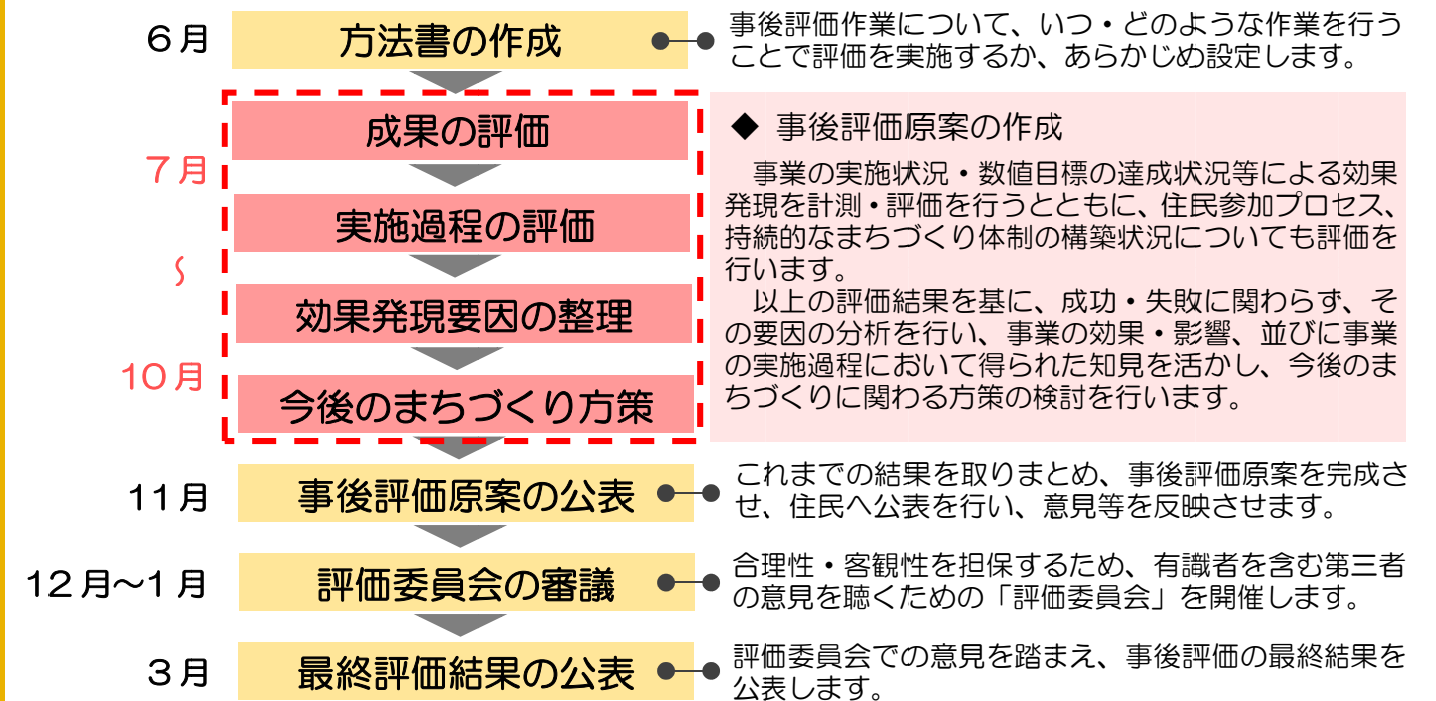


JR 和泉府中駅周辺地区の経過>>



事後評価(Check)の概要

事後評価における検証のフロー



都市再生整備計画の内容

地域の現状とまちづくりの経緯

- JR 和泉府中駅周辺は、駅を中心に企業・工場・商店が立地し、市役所をはじめ警察署・保健所・病院などの行政機関が集まり、政治・経済・文化の中心的な役割を果たしてきた。
- しかし、ロードサイドの郊外型大型店舗が進出するようになり、和泉府中駅周辺地区でも空き店舗が目立ち始めるなど、商業・業務活動を取り巻く環境は変わりつつあります。
- 同地区においては、S63.3月に「和泉府中駅周辺地区再生計画」を策定し、駅前再開発事業に取り組むなど、都市基盤の整ったまちとして活性化を図っています。

まちづくりの課題

- 一体的な地域整備により本市の都市核にふさわしい、**活力ある商業・業務活動、文化、交流活動を担うまちづくり**が課題である
- 駅前主要道路の整備や駅前広場等の**歩行者ネットワークの整備により回遊性の向上を図り、和泉府中駅周辺地区一体の賑わいの創出**が課題である

まちづくりの目標

大目標 安全で快適な和泉市の玄関としてふさわしい地区へと再構築を図る

目標1 都市基盤施設である道路の築造・改築することにより、交通安全性、歩行者の快適性の向上を図る

目標2 施設更新する観光情報ステーションを情報発信源とし、地域の文化、交流活動を促進するまちづくりを進める

基幹事業



【道路事業】
和泉府中駅西線（85.7百万円）



【道路事業】
和泉府中北通り線（64.6百万円）



【高質空間形成施設】
和泉府中駅前広場（13.2百万円）



【高質空間形成施設】
和泉府中北通り線（25百万円）

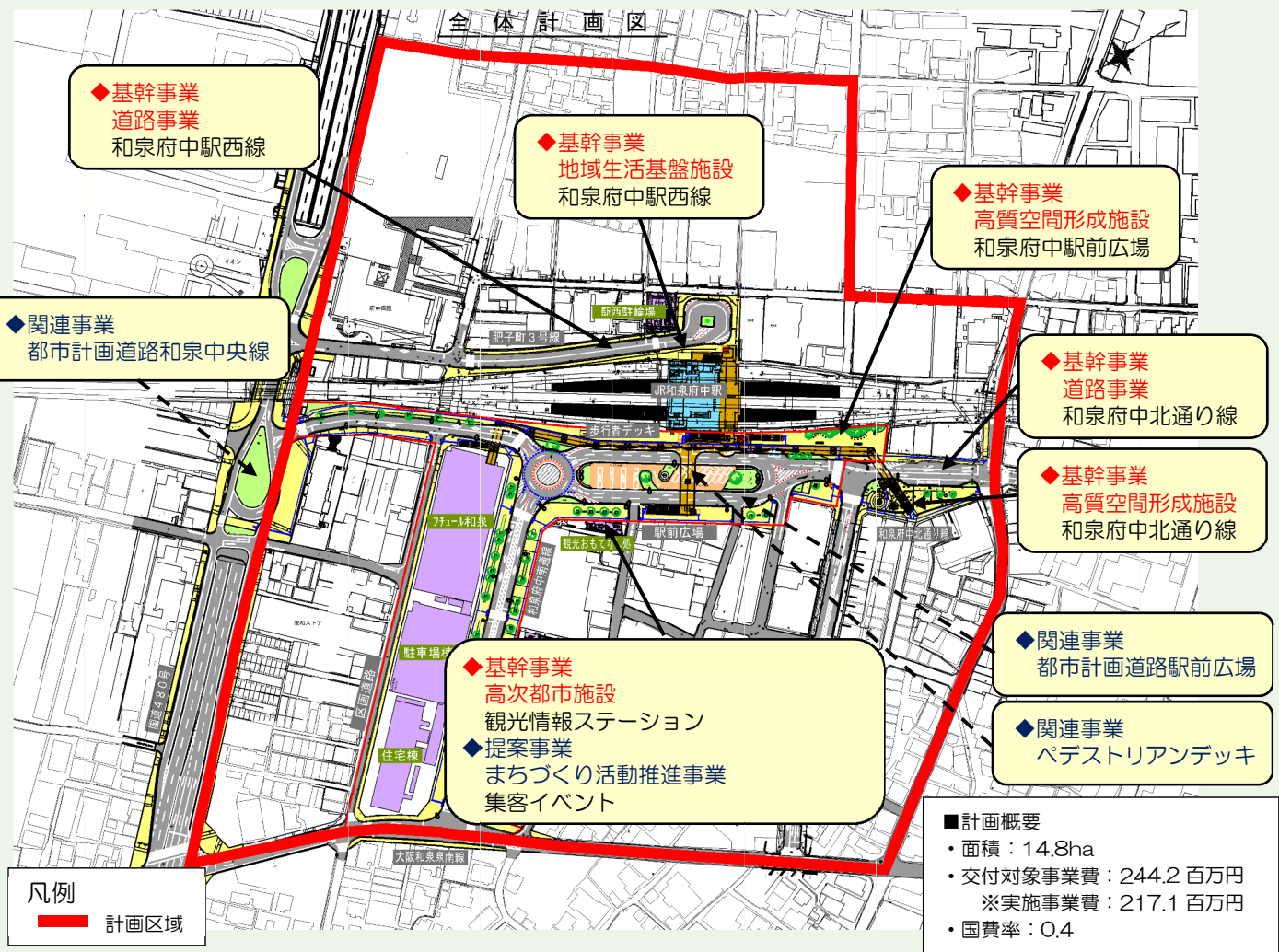


【高次都市施設】
観光情報ステーション（26.2百万円）



【地域生活基盤施設】
和泉府中駅西線（2.2百万円）

JR 和泉府中駅周辺地区(2期) 事後評価



提案事業・イベント関連



【まちづくり推進活動事業】（集客イベント）
観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）（0.2百万円）



いずみ音楽祭
和泉府中駅前
イルミネーション

効果発現状況の確認

指標項目	従前値 (基準年度)	目標値 (H29年度)	評価値 (目標達成度)	検証による総合所見	今後の活用・改善の方針
和泉府中駅周辺が利用しやすいと感じる市民の割合(市民アンケート) (%)	23.0 (H24)	80.0 (H29)	65.6 (△)	目標値には達していないものの、本整備計画期間内に大幅に増加しており、道路整備等の効果は一定現れている	今後も引き続き、歩道のバリアフリー化などの事業を実施する。また、整備計画区域内だけでなく、その周辺についても同様の整備を行い、広域的に都市空間の質の向上を図る。
観光情報ステーションの来館者数 (人)	4,461 (H23)	5,385 (H29)	12,180 (○)	大幅に目標値を上回っており、移転に伴う利便性の向上、認知度の向上、駅利用者の増加が要因と考えられる	今後も地域のイベントやまちづくり活動などの発信拠点として活用を行う
和泉府中駅周辺の交通事故発生件数 (件)	25 (H26)	—	13	駅周辺の道路整備・歩行者空間の整備により、交通安全性の向上が図られ、交通事故発生件数は減少している	その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)
和泉府中駅周辺地区でのイベント実施回数 (回)	0 (H24)	—	6	観光情報ステーションの移転や駅周辺の基盤整備により、道路空間などを利用したイベントが実施され、地域の活性化が図られている	

今後のまちづくり方策

○活力ある商業・業務活動、文化、交流活動の基盤となるまちづくりが課題であったが、和泉府中北通り線のような高質空間が整備され、道路空間を活用したイベントなどの地域活動が地元商店街等により実施されており、地域の活性化が図られている。また、観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）を活用したイベント活動等も積極的に実施されており、周辺地区ににぎわいを創出する体制・基盤は整ってきている。

⇒今後も、観光情報ステーション（いずみの国観光おもてなし処）など、これまで行われてきた基盤整備を活用したイベント活動を継続的に行えるよう支援を行う。また、周辺商店街を地域の情報発信の拠点とするなど、地域の特色を活かした賑わいある和泉府中駅周辺地区の更なる活性化に努める。また、引き続き、当該整備区域内において、歩道のバリアフリー化などの事業を実施し、歩行者の安全性および快適性の向上を図って行く。

○歩行者ネットワークの整備により回遊性の向上を図り、和泉府中駅周辺地区一体の賑わいの創出が課題であったが、道路整備などにより交通利便性は向上し、当該地区内の居住者も増加している。

⇒今後も、当該整備計画区域内だけでなく、その周辺地区についても継続して整備を行い、一体の地区として、広域的に都市空間の質（交通利便性・快適性、安全性）の向上を図って行く。